できた……！エルフによく効く媚薬！！！

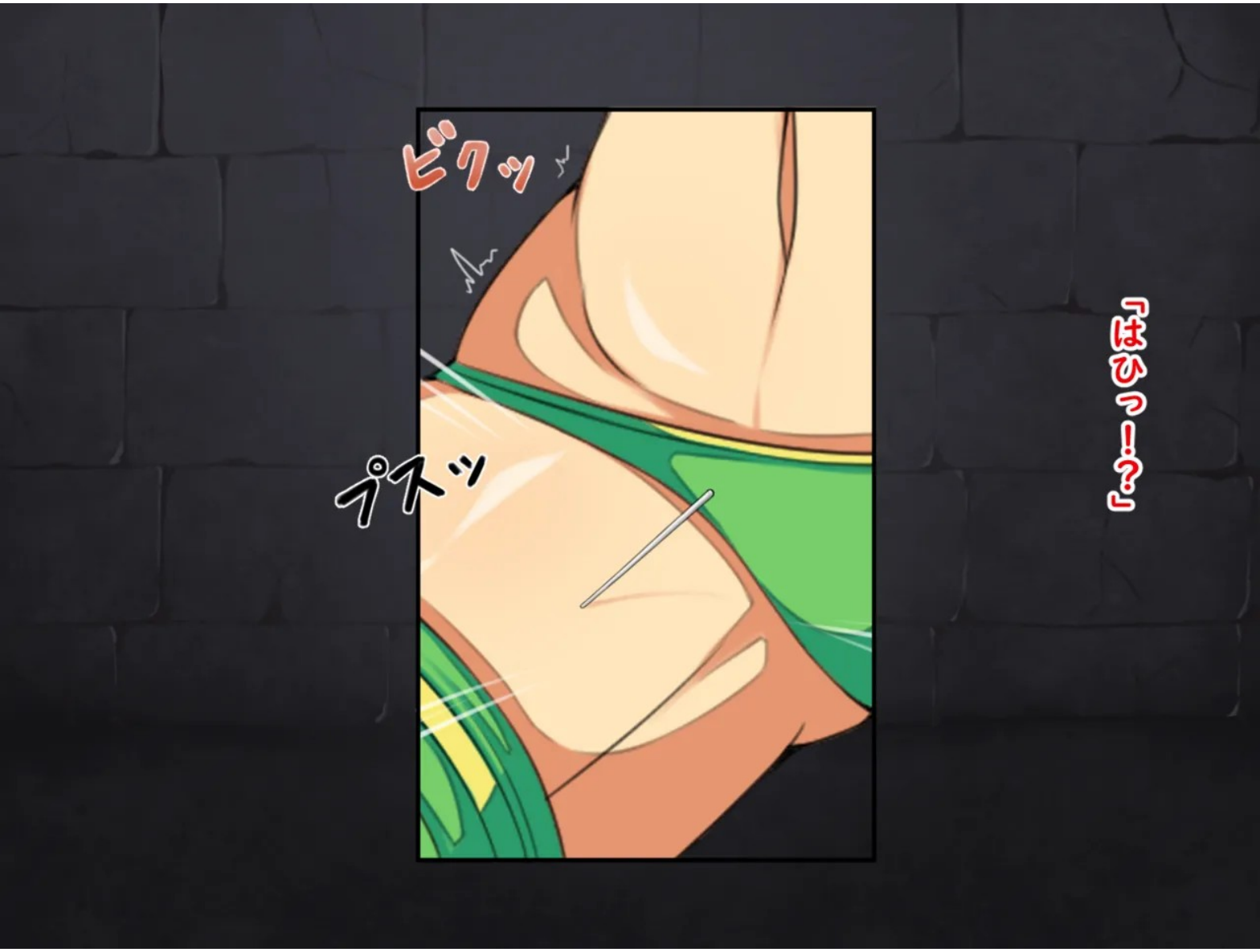
こいつさえあれば…ぶひひ…
待ってろよクソエルフ……！

「おっ♪オークはっけ～ん♪
丁度お金切らしてたところなのよね～♪
あ、金になりそうなもの置いていったら殺しはしないわよ？
ほら痛い目に合いたくなかったらさっさと言う事聞きなさい？？」
「ぶひひひひ……」

「何笑ってんのよ気色悪いわね…
ほらさっさといつもみたいに金目の物置いて逃げていきなさいよ！
こっちだって忙しいんだからさっさとしなさいよこの豚オーク！！」
（こ、こいつ…!!）
「今までよくもオレをコケにしてくれたな…これでも喰らえ！」

《よしっ！当たった！》
・・・・・・
「痛っ…なにすんのよ…ってえ？あ…れ……？
体…が……動かない…目の前が暗……く……」

「クッ…こんな所に連れてきてどうするつもりよ豚オーク！
オークの分際で何様のつもりなの！？
ほら、痛い目に合いたくなかったら早くここから解放しない！」
「こ、こいつ…まだ立場が分かってないみたいだな
まずはその生意気な口から叩き直してやる…！
っと…その前に……」


ビクッ
プスッ
「はひっ!?」

「い、今のなによ…!?」
「ぶひひ…最近完成した媚薬だよ
特にエルフにはよく効くらしいぜ?」
ビクビク
ドキ♡
ドキ♡
「なっ……なに…してくれてんのよ…
っ……はぁ……はぁ……」
(んっ…なに…これ……体がぁっ熱い……)
ガクガク
ビクッ♡
ビクッ♡

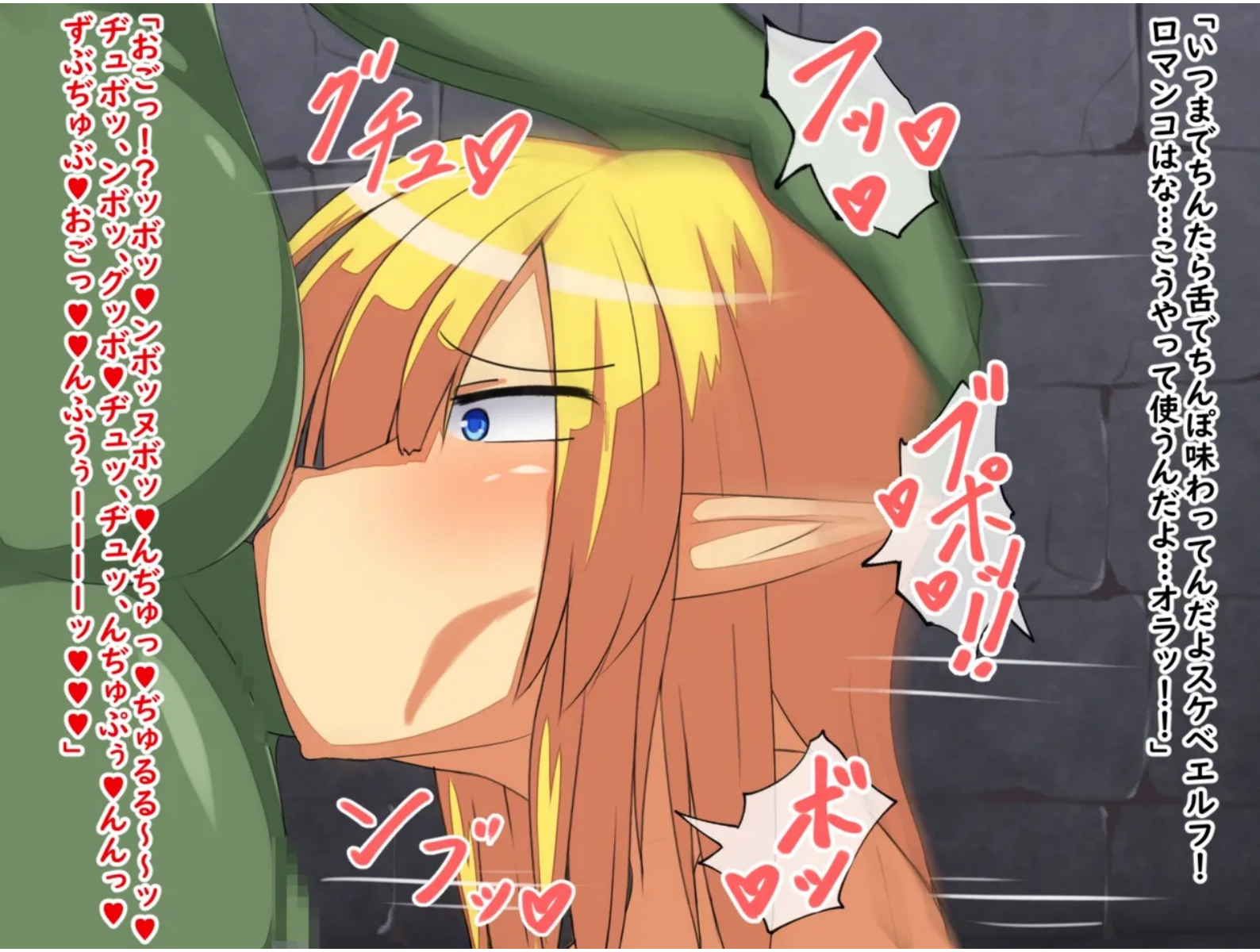
「それじゃあさっそく…」
ガク
ガク
ビクッ!!
ビクッ!!

「何勝手に人様のちんぽ嗅いでんの？怒るよ？
そんなに気になるなら特別にしゃぶらせてやるよ！」
「な……フゴッ、なんてもの近づけてんのよ…♥
は、早くど…どかしなさい！」
（なにこのっ……最っ低な臭い♥）
「スンスン……フゴ…フゴッ」
ビキッ
ビキッ
フェロッ
ビキッ

ビクッ♥
ん
ゾクゾク
「んぶっ!!」
ゾクゾク
ビクッ♥
ん

「うぶっ…ぎもぢわるい……」
「ほらほら、エルフちゃんの大好きなおちんぽだよ～？嬉しいね～♥ちゃんと射精するまでしゃぶらないと抜いてやらないからな？分かったならさっさしゃぶれ！」
ズボッ
ガクン
ガクン
ブルッ
ピクッ

「れろれろ…♥ぢゅぶうっ！ちゅっ♥ちゅっ♥んれろぉ～っ♥
早く…！はぶうっ♥イケっ！！ずぢゅぶぶっべろれろおッ♥♥
むぐっ♥ぐぢゅぶりゅぢゅぢゅぢゅぢゅうっッ♥♥♥」
ブッ!!
ブポ
ブッ!!
ブポポッ!!
レロ
レロ
「うおぉ♥すっげぇ舌使い
ちんぽ好き好きだろこのドスケベエルフ(笑)流石に引くわ
オラッ！ちゃんと喉も使ってしゃぶんだよ！」

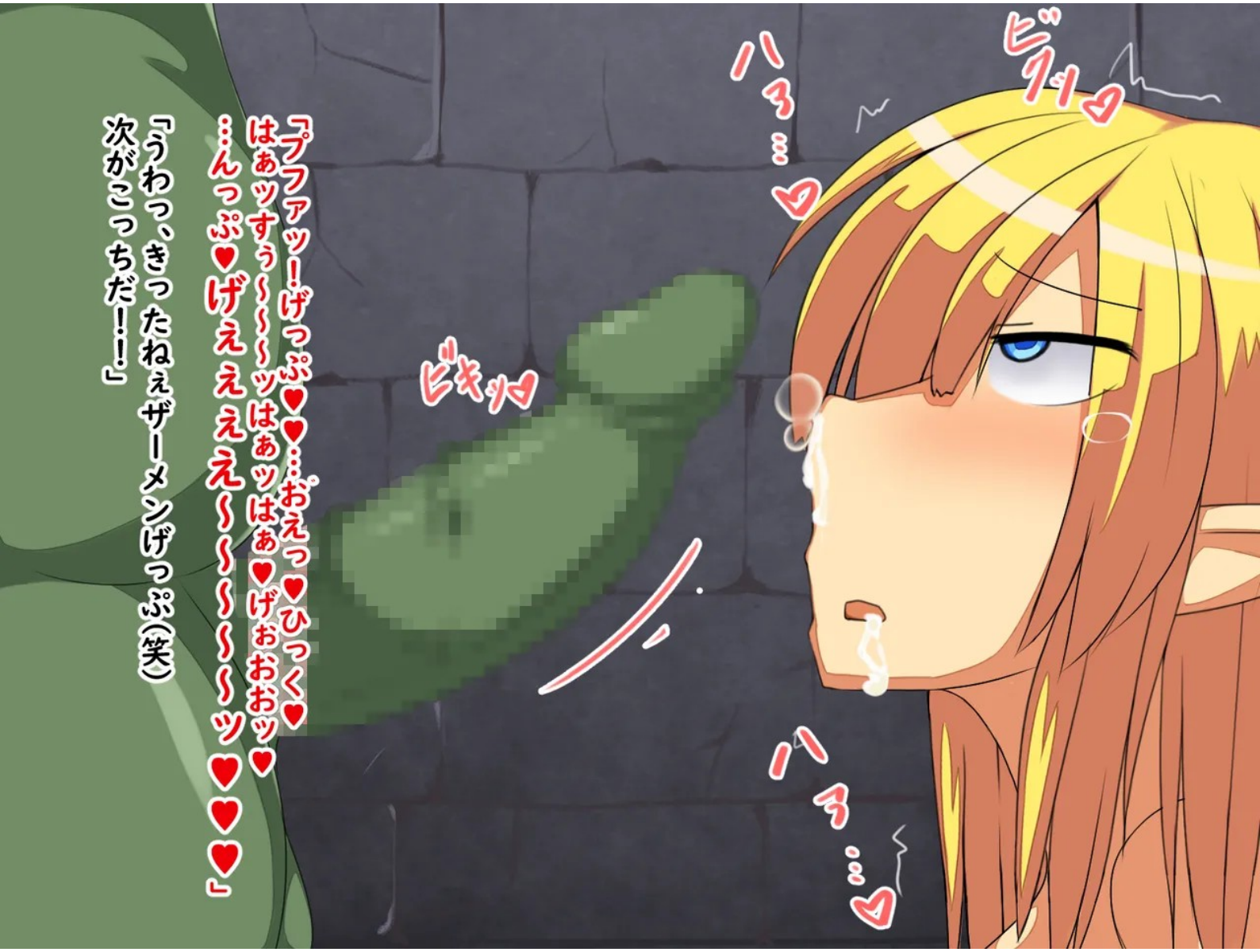

「いつまでちんたら舌でちんぽ味わってんだよスケベエルフ！
ロマンコはな…こうやって使うんだよ…オラッ！！！」
フッ♡
グチュ♡
ブポッ!!♡
ボッ♡
ンブッ♡
「おごっ！？ッボッ♥ンボッヌボッ♥んぢゅっ♥ぢゅるる～～ッ♥
ヂュボッ、ンボッ、グッボ♥ヂュッ、ヂュッ、んぢゅぷぅ♥んんっ♥
ずぶぢゅぶ♥おごっ♥♥んふぅぅーーーーッ♥♥♥」

「んんっ♥ンッボチュッボッ♥ぢゅるぢゅりゅンボッ♥
ぢゅっ♥ずごごっ!!!!ヂュボボッ、ズヂュンッボッッ♥♥
ヂュルボボボボボッ!ボッ、ボッ、ヂュルッ♥♥」
（い…息できない……!イゲッ……!!!はやくイケっ!!!!!!!!）
「ずぢゅっ、ぢゅッぢゅるるるるるうぅぅ〜〜〜〜〜〜ッ♥♥」
ブルッ♡
ズリュ♡
ギュルッ!♡
ブポッ♡
「ぐおおっもう出そうだっ!!!!!
一滴もこぼすんじゃないぞ!」

「ぐおおッ！出るッ！！」
ボボーッ
ビュルルル
ドクッ
ドビュ
「んん～～～～～ッ！オボッゴボボボボッ!!
ひゅ～～っ♥んっふぅ～～～～～～～ッ♥
ヂュッルゥウウウッ♥んっふぅ～～～～～ッ♥」

「ちゃんと飲み込むまではなさないからな？」
ビクッ
ゴクッ
ガク
ゴクッ
ゴクッ
ガク
「んんっ♥ぢゅるっヂュルッ♥……ごっくん♥♥」
（ううっ…ぎもぢわるい……）
「ンボぢゅうっ♥ぢゅるるうぅ～～～～ッ♥ごっくごきゅ♥
ぢゅ、ぢゅるッ、んっぼ♥ぢゅぼりゅりゅりゅ～～ッ！ごっくん♥」

「んん♥ごくっ……♥ぢゅっ♥ちゅる…れおれろぉおぉ～～ッ♥
ずびっ♥ちゅっ、ちゅっ、ちゅっ♥ふゅぶぶぶりゅうぅぅう♥
ぢゅっ、んぢゅるるるるるるッぞぼぼぼ～～～～～～～ッ♥♥♥」
ブッ
ガクロ
ブッポロ
ブボッ
ビクッ
ブボッ
ヂュルッ



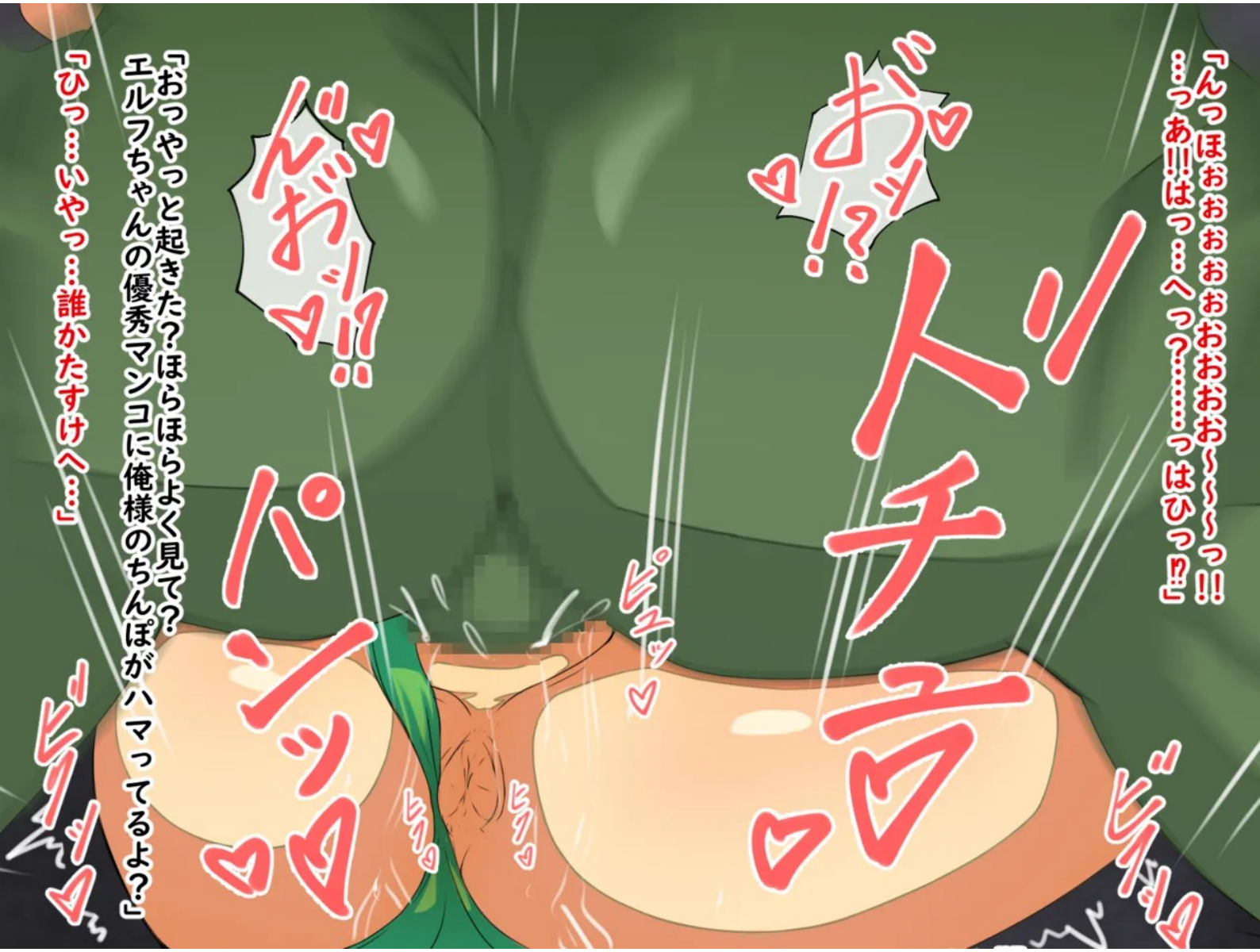
「プファッ！げっぷ♥♥…おえっ♥ひっく♥
はぁッすぅ～～～ッはぁッはぁ♥げぉおおッ♥
…んっぷ♥げぇえええ～～～～～ッ♥♥♥」

「うわっ、きったねぇザーメンげっぷ(笑)
次がこっちだ！！」

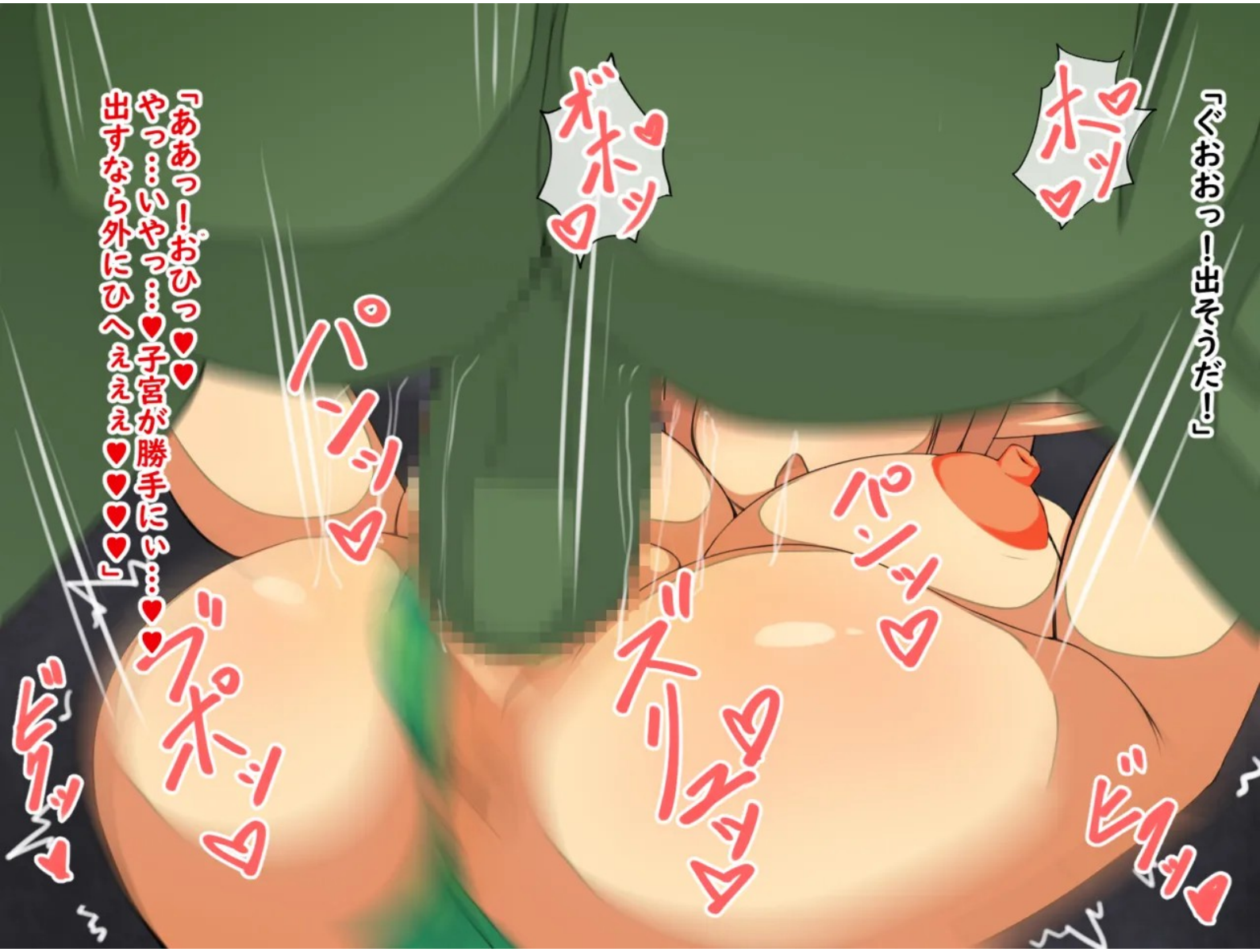
「いやっ！はなしなさいよっ！このクズオーク！！
さ、さっき出しだでしょ！？！？」
（ひっ…あんなの入れられたら死んじゃう…！）
「パンツにシミ付けて言っても説得力ねぇんだよ！
オラッ！！」
ビクッ♥
ビクッ♥
ビクッ♥
ジワ…
ジワ…

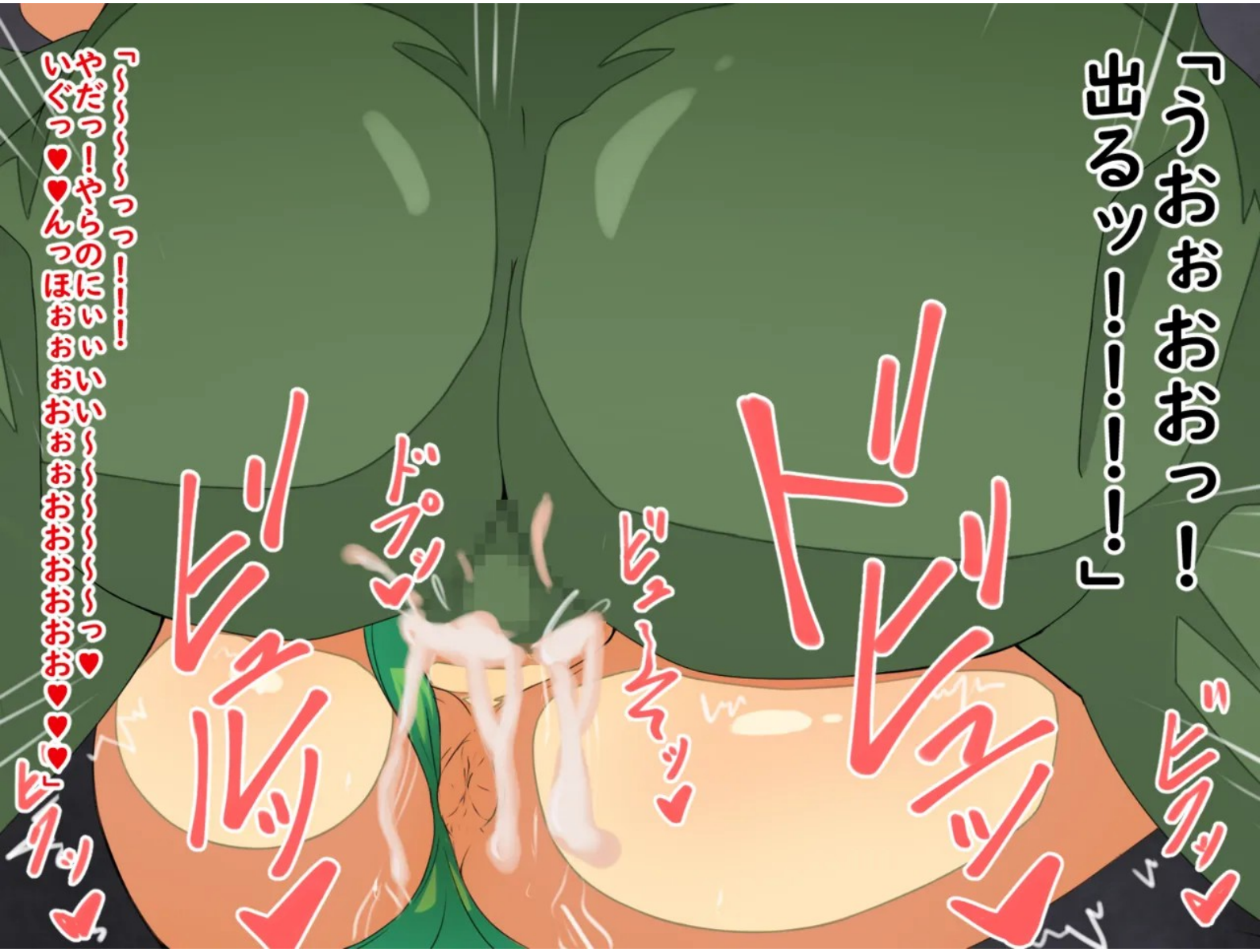
「いやあぁぁぁぁあっ!!
…ひぎっ!!…おっ!」
ズチュンッ
ニュルン
ブリュッ
ビクッ

「……っ！……はっ…、…んおっ♥
…はひっ♥…おぁ……おぁっ……♥」
あ～ッ♥
ガクッ♥
ニュル～ッ♥
ピクッ♥
あッ♥
トロォ～ッ♥
ガクッ♥
ピクッ♥
「ぐおっ…締まるっっ！！！！
こんな優秀な穴ひっつけといて誇らしく無いのかよ
…ってあれ？気絶してるのか？起きろオラッ！！」


「んっほぉおおおおおおお～～～っ!!
…っあ!!はっ…へっ?……っはひっ⁉」
おッ!?
ぐぉ!!
リチョロ
パンツ
ピュッ
ヒクヒク
ビクビク
「おっやっと起きた?ほらほらよく見て?
エルフちゃんの優秀マンコに俺様のちんぽがハマってるよ?」
「ひっ…いやっ…誰かたすけへ…」

「せっかくハメてもらってるなんだその言葉は!?
お前はここで一生オナホとして生きてくんだよ!」
お～っ♥
ズンッ♥
パンッ♥
ズポッ♥
ヒクッ♥
ガリッ♥
「やらっ♥そんなのいやあぁぁっ!!あっ♥
んほおぉおおっ!?おまんこ引っ張られるっ♥♥
ほっ♥んほっ♥……んおぉぉおおおおっ!?♥♥ガクッ♥


「ぐおおっ！出そうだ！」
ボッ♡
ボボッ♡
「あぁっ！おひっ♥♥
やっ…いやっ…♥子宮が勝手にい…♥
出すなら外にひへぇぇぇ♥♥♥♥」
パンッ♡
パンッ♡
ブポッ♡
ズリュッ♡
ビリッ♡
ビリッ♡


「うおぉおおっ！
出るッ！！！！！」
ドビュッ♥
ビュ～～ッ♥
ドプッ♥
ビュルッ♥
ビクッ♥
「～～～～～っっ！！！！
やだっ！やらのにぃぃぃぃ～～～～～～～っ♥
いぐっ♥♥んっほおおおおぉぉおおおおおおおお♥♥♥」
ビクッ♥

「ぶひひっ…ひってぇ顔(笑)
まだ出したりねぇ…いつまでへばってんだこっちこい！」
あ〜ガク♥
ガクン♥
ビクッ♥
ガクン♥
ブピッ♥
ブリュ♥
ヒクン♥
ヒクン♥
「へっ…？あっ…♥
あひっ……んおぉおっ♥やらっ♥
あああっ……♥あぁ〜〜〜〜〜っ♥♥♥」

「…っん…♥は、はやく解放しなさいよ…！
高貴なエルフ族の私にこんな事しておいてただで済むと…お？んおっっ！？！！？
おっほおおおおおおおおおおおおおおおおおお♥♥♥」
「はぁ！？
高貴なエルフ様がちんぽ入れられたぐらいでこんなド下品な声で鳴くわけねぇだろ！
さてはお前豚だな？豚が何エルフ偽ってんだよ謝れオラッ！！！！」
ずんっ♥
ずんっ♥
ずんっ♥
ずんっ♥
ずんっ♥

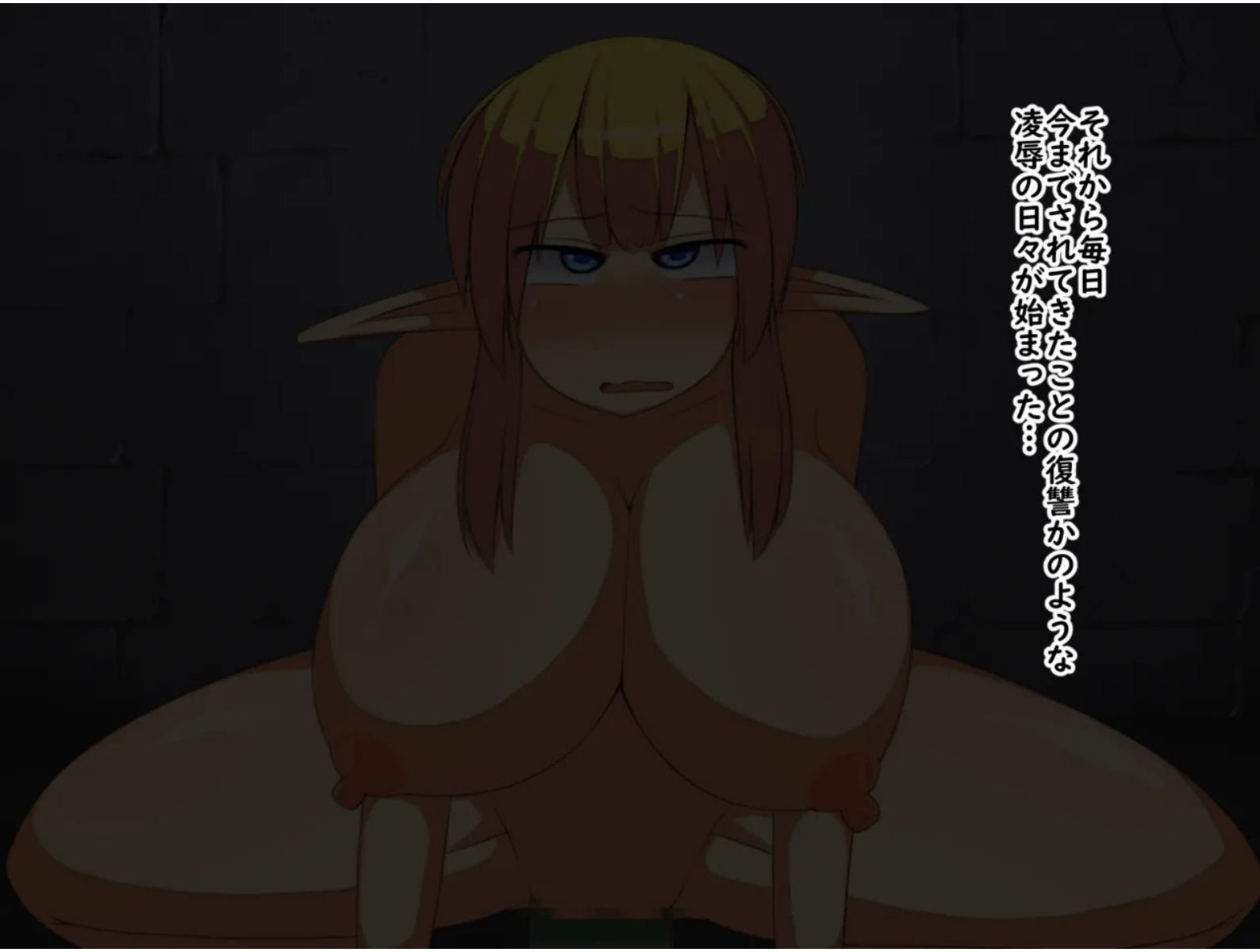
「んおっ♥ごめんなさいぃ♥♥ふごっ♥謝る♥謝るっ♥♥フゴッ♥豚みたいに鼻ならしながら謝りますからゆるしてくださいぃ♥フゴッ♥ブヒブヒィ♥」
「分かればいいんだよ分かれば、じゃご褒美にケツ穴ほじほじしてあげるね♥」
「んほぉおおおお♥♥なに…これぇ！？んぉっほぉおおおおおおおおお♥♥」
「んっ？ケツ穴交尾初めてだったのかな？？これが本来のお尻の穴の使い方なんだよ？勉強になったね～♥」
おっブヒッ♥
ビクッ♥
んおぉっ♥
ヒクヒク
ヒクヒク
ガクガク
ガクガク

「おっ♥おっ♥おっ♥やらっ♥こんなの知りたくなかったっ♥♥
やべっ♥ごれやべっ♥♥おしりのあなばがになるぅぅぅぅ♥♥♥」
「何がおしりの穴だオラッ！ケツ穴だろうが！！」
「んおっ♥おっほぉおおおおおお♥♥やらっ♥ケツ穴やらぁぁぁああ♥♥♥」
オゴッ♥
イッ♥
オゴッ♥
イッ♥
ズポッ
ズポッ

「ほっ♥ほっ♥んおっ♥♥やらっ♥♥これやらっ♥あぁぁぁ～～～～っ♥♥
こんなのでイギだくないい♥♥いったら確実にケツ穴ばかになりゅ♥♥♥」
「ちんぽギュウギュウ締め付けながら言ってても説得力ねぇんだよメス豚！」
「あっ♥ケツ穴イギそうっ♥♥ゲツ穴アクメなんでぢだくないっ♥♥」
ぐおおっ♥
あっ♥
ぐおっ♥
ブルッ♥
ブルッ♥
ズボッ♥
ズボッ♥

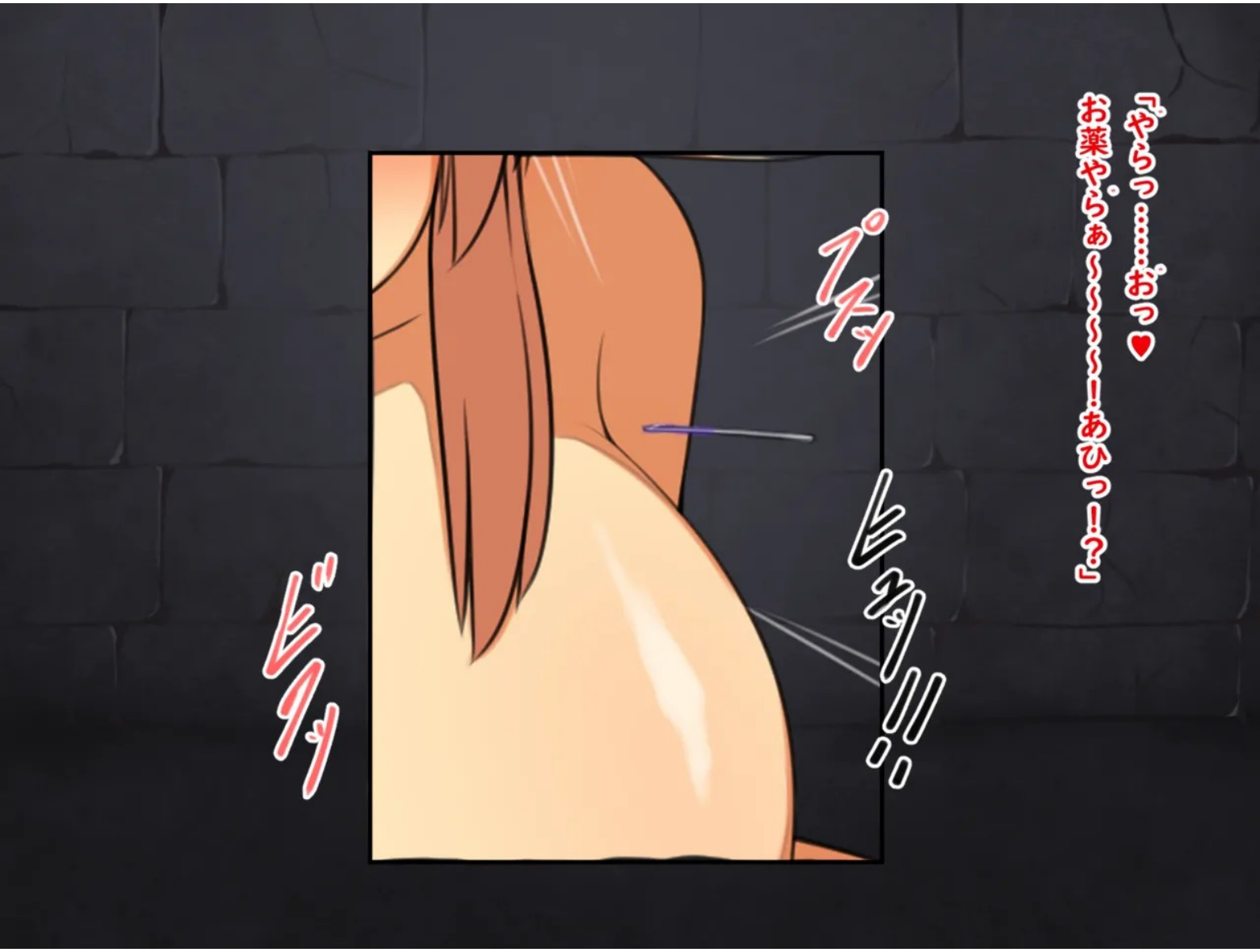
「ほおおっ！出るッ！！」
んおおっ
ビクン
ビクン
おおっ♡
ビュルルル
ドクドク
「んほっ♥んっぎいいいっ♥い、いぐっ♥ケツ穴いぎますっ♥ケツ穴アグメぐるっ♥♥
んっほおっおおおおおおおおおおおおおおおおおお♥♥♥♥」

「……っ……っ♥……ひぐっ♥♥……っあ……ひっっ♥……んおっ♥♥」
「ふー出した出した……ってまーた失神してんのかうわっひでぇ穴(笑)これじゃ数日は元にもどらね～な(笑)」


それから毎日
今までされてきたことの復讐かのような
凌辱の日々が始まった…

「エルフちゃんっ？なんで腰止まってるの？ちゃんとオナホとしての自覚もって？」
はぁ…
んひぃ
おぉ
ヒクッ
はぁ…
あ
「はあっ……うぅ……」
ガ
ガ
ガ

「んおっ！？
ちょっとまって……んっ……
イってってうごへないのお……♥」
「イキそうなときはちゃんと確認取れって言っただろ！
人語が分からない豚さんには、お仕置きが必要だね♥
は～いお薬ですよ～♥」
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ビクッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ビクッ
ビクッ
ビク


「やらっ……おっ♥
お薬やらぁ～～～～！あひっ！？」
プスッ
ビクッ
ビクッ!!

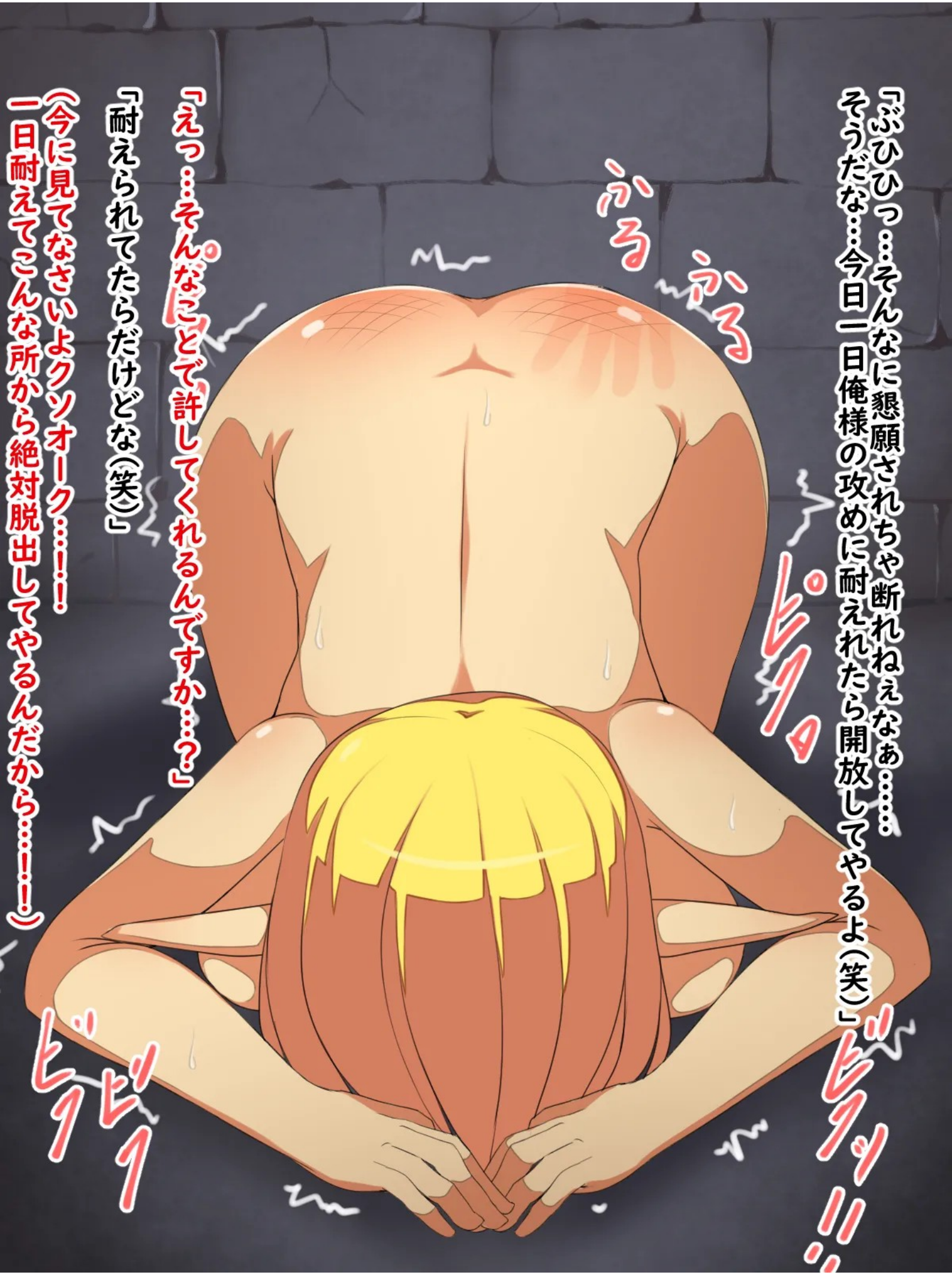
「やらぁっ♥このお薬やだぁ～～～♥♥
んおっ♥腰がっ♥勝手に動いちゃうよぉぉ♥♥♥」
「ほっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥んっ♥なんでぇ♥♥
とまってよぉ♥♥んおっ♥んおおおおお♥♥♥」
ビクッ
ビクッ
あぁ♥
あっ♥
パチッ
パンッ
パンッ

「ぐおおお、出そうだ！」
「おっ♥おっ♥おっ♥おっ♥いぎそう♥
わた♥わたひもいぎそうです♥♥」
「勝手にイクんじゃねーぞ！オラッ！受精準備しろ！」
「おおおぉッ！あっ♥やばっ♥完全に子宮おりきってるっ♥♥
受精準備完了っ♥♥おぉおおおッ♥あ～～～っ♥♥♥」

「ぐおっっっ出るっ！！！！！」
「おおぉッ♥イキそう♥イグッ♥イキますっ♥♥んおっ♥
イィィィッぐぅうううううッ♥♥♥んおぉッ♥
種付けされながらイッぐぅうう♥おほぉおおおお～～～ッ！！」

「ふ～出た出た。ま～た許可なしにイっちゃったの？反省して？
今晩は夜通しお仕置きっクスだね♥覚悟しろオラッ！」
「やらぁ…んひっ♥おしおきやらぁ……♥♥♥」

「今日も会いに来てやったぞ…ってなにやってんだ？」
ふるふる
ピクン
ピクッ
ビクッ!!!
「もう許してください…限界なんです……ぐずっ…
今までしたことは謝りますからここから解放してください……」
ヒクヒク


「ぶひひっ…そんなに懇願されちゃ断れねぇなぁ……
そうだな…今日一日俺様の攻めに耐えれたら開放してやるよ(笑)」
ぶるぶる
ビクッ
ビクッ!!!
「えっ…そんなことで許してくれるんですか…?」
「耐えられてたらだけどな(笑)」
(今に見てなさいよクソオーク…!!
一日耐えてこんな所から絶対脱出してやるんだから…!!)
ビクビク

「ここがすきなんだろ？
オラッ！！！」
ピクッ
ピクッ
おッ
おッ
「んおっ！？
……んっ♥んおっ♥はっ♥はげじっ♥♥♥あっ♥
んっ♥おっ♥おっ♥あっ♥あっ♥おっ♥♥」
パンッ
パンッ

「んおっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥んあっ♥♥
おっ♥イキそうっ♥イキそうですっ♥
イギます♥イグイグイグ……」
パン
パン
パン
パン

「イッ……えっ？……なんで……？
（もうちょっとでイケそうだったのに…！）」
？
？
「なに期待してんだ？
ぶひひひ……一日堪えるんだったよなぁ？オラッ！」
ピタ～ン
ヒィ
ヒィ

「っおあぁっ!?やっ♥そこダメっ♥♥
ふ～っ♥ふ～っ♥ふ～～～～っ♥
んあっ♥今度こそイッ……♥♥イギますっっ♥」
ぐぉっ
お
ビク
ズン
ズン

「やらっ……♥今度こそイっ……あ…あれ…？
……えっ……？？？」
「ぶひひひひ……」
？
？
？
ピィッ…
ヒクッ
ヒクッ

～～4時間後～～

「ほらほらここがいいんだろ？」
あ♥
お♥
パン♥
パン♥
パン♥
「おっ♥おっ♥おっ♥おっ♥そこっ、そこしゅきでしゅっ♥♥
～～～～～っっっ♥♥っんおあっ♥
ん～～～～っ♥もうイグッ♥♥今度こそエルフマンコイギますっ♥
イグイグイグイグイグッ……!!!」

「イっ……！……へっ……？なんでぇ……？
なんでいじわるするのおぉ！？イきたいの！イかしてよぉ……！！」
「ぶひひひ…なんだぁ？一日耐えるんじゃなかったのかよ？」
「あぁっ♥イギだいっ♥イギだい♥イギだいのおおおおおおおっ♥♥」
「うおっ！？くそこいつ…暴れんなドスケベ！そうだな…
一生オナホとして生きてくって誓うならイカしてやるけどどうすっかなぁ？」
「誓うっ♥誓いましゅっ♥だから早くおマンコほじほじしてください♥」
「あ～あ誓っちゃったよ(笑)…なら思う存分ほじってやるよ！」
ピッ
ヒク
ヒク

「はひゅっ♥♥んおっ!?そこっ♥そこしゅきなの♥♥
おっ♥んおっ♥も、おっ♥おっ♥おっ♥もおっ♥っとそこほじほじしてください♥♥」
「俺様に指図してんじゃねぇよイきたがりの雑魚マンコが!」
おッ♥
パン♥
パン♥
パン♥
パン♥
「ごめんなしゃいっ♥♥おほっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥
あっ♥イグッ♥イぎそうっ♥エルフのクソ雑魚マンコいきそうでしゅ♥♥ほっ♥ほっ♥
「俺も出そうだ!受精準備しろ!!」
「はいっ♥♥イグッ♥イグイグイグイグイグ♥♥♥」

「ぐおおおおっ！出るっ！！！！！」
おおっ♡
ピクン♡
ピクン♡
おっ♡
「イグッ！イかさせてもらいましゅっ♥♥
イっぐうううううううううッ♥♥♥♥♥♥」
ビクン♡
ビクン♡
ビクン♡

「……っんあ……♥♥んへぇ……♥
ひゅーっ♥ひゅーっ♥……んおっ♥♥♥」
ピクッ♥
ピクッ♥
あ♥
ピクッ♥
「うわっひっでぇエルフがしていい顔じゃないでしょこれ(笑)
これに懲りたらもう変な考えはおこすんじゃねーぞ」
「えへへ…はいぃ♥♥オナホの分際でわがまま言ってすみませんでしたぁ…♥♥」
ヒクッ♥
ヒクッ♥

「ふ～～っ♥ふ～～っ♥ん～チュッ♥♥
れろれおれろぉお～～♥♥♥チュッ♥ふぅ～～っ♥♥」
「ぶひひひ…それにしても随分と素直になったなぁ？
俺たちを鴨にして金を巻き上げてた頃とはえらい違いだぜ…なぁ！？」

「ちゅっ♥…あの時わぁっ♥…すんすんっっ！一時の気の迷いだったんです…♥
やっぱりエルフはぁ…おちんぽ様のコキ穴になるために産まれてきたんだなって…♥
れおれろぉっ♥はぁあ…おちんぽ様おいしいい♥……ちゅっちゅっれろれろぉっ～♥♥」
「ちんぽに恋人キスしながら何言ってんだよスケベエルフ！(笑)
アホな事いってる暇あるならちゃんとしゃぶりやがれ！」

「ごめんなさいぃ♥しゃぶるっ♥おちんぽ様いただきまぁ～～す♥♥
んぼっ♥ぢゅぼっ♥ぢゅるっ♥れろべろれろろぉおお～～～～っ♥
ふぅ～～っ♥♥ぢゅっ♥むふぅ♥ぢゅるるるるるるるるるるッ♥」
ズンッ
ズンッ
ズンッ
ブンッ
ブポッ
(はぁっ…ふぅ～っ♥あぁあぁあぁあぁ～～～～～～ッ♥
チンボっ♥おちんぽ様汁っ♥おぃしぃぃ～～～～～～ッ♥)

「ぐおおッ！出そうだ！出してやるから思いっきり吸い付け！！」
ブポッ♡
ブポッ
ブポッ
ブポッ
「はいっ♥…ンボッンッボッ♥じゅじゅじゅじゅっ♡ぢゅっぽぢゅるるるるっ♥れれおれろぉ♥ジュルジュルっ♥出してっ♥お口にいっぱいだしてくらさい♥ンボぢゅるるっ♥ふ～う、ンボっぢゅるるるるるるうぅうぅうぅうっ♥♥♥」

「んっ…？んんーーーーーーーーーーーーーーーッ！！」
ビクンビクン
ビクンビクン
ゴポッ
ゴポッ
「ンボォオオッ！んぶっっ、すっごい量っ……♥♥ぢゅぶるるるるるるるるうっ♥♥
もっとだしてえっ♥んっ、ぢゅるぢゅるぢゅるるるるるるるる

「んおおおぉ、ふぅ…スッキリした。よし！飲んでいいぞ」
ゴクッ
ゴクッ
「んっ…♥ふぁあい♥♥オーク様のおちんぽザーメンミルクいただきまぁあ～す♥♥♥
……ごっくんっ♥はぁぁあっ♥ごくっごくっ♥♥ぢゅっぢゅっぢゅるるるるるっ♥
んぶっ♥んぶぶぶぶぅっ♥ごくっ♥ごっくんっ♥♥♥ふぅ～～～っ♥ごっくんっ！！♥」

「んんっ♥ぢゅぶぶっ、ぢゅるるるるるる～～～～ッ♥♥んぐっ、おぼっ♥
ぢゅるっ！ずぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼぼっ♥はぶっ、ぢゅるるっ♥
ちゅっちゅっちゅるるる～～～ぢゅぞぞぞぞぞ～～～っ♥んぽっ♥♥♥」
ヂュルヂュル
ヂュルヂュル
ヂュルヂュル

「ふぅ～～スッキリしたっと…もういいか。
よし！あとはお前らで好きに使っていいぞ！！」
ピクッ♡
ピクッ♡
「はぁ♥…はぁ♥、はぁ♥……へっ？」
フルフル
フルフル
フルフル
フルフル

ジュルッ♥
ヒクヒク
ジュルッ♥
レロレロ
ヒクヒク
パンッ♥
パンッ♥

「んぶっ……はぁ……ジュッジュッツッ♥ふうっ、ヂュッポン♥♥ぢゅるるるる～～～ッ♥」
「うほっ、タコみたいに引っ付いてきやがる。ちゃんとやったら褒美ザーメン飲ませてやるからしっかりしゃぶれよ！」
「レロレロロロォ～～～ッ♥ふう～っ、ずぢゅるるるるる～～～～～～～ッ♥♥」
「手が止まってんぞ！」
「はひぃいい♥ジュッじゅぞぞぞぞおッ♥ごめんなさい♥♥ずりゅるるる～～ッ♥」
ブポッ
ゲッ
ズイッ
パンッ

「はぶうっ！んっぽ、ぢゅっぽ♥ジュルジュルッ♥♥じゅぞぞぞぞッ♥
濃厚ザーメンぢゅぶっ♥お口にっうぶぶぶうっ♥だしてくださぁ～～～い♥♥
んぐッぢゅっふうううう！ぢゅるるるるるるるるるるるッ♥♥」
「くぅ～～っ！たまんねぇ！もう出そうだ！しっかり味わって飲み干せよ！」
「ぐおお、こっちも出そうだ！」
「ぶちゅっ！ンジュッジュルッ！！ずぢゅるるるるるるるるるるるッ♥♥♥♥」
ゾーン
ズボッ
ギュルル
ズーン
パンパン

「ぐおおおっ！出るっ！！」
「んぐっ！？おぼぼぼぼっ♥♥♥」
（オーク様の生臭おちんぽミルクきたあぁあ～～♥♥♥）
ビクビク
ドクドク
ドクドク
「んぶぶぶぶっ♥♥ごきゅっ♥おえっ♥ぢゅるるるる～～～～ッ♥
んん～～～♥♥ふぅ～ふぅ～♥ごきゅ♥ごっくん！♥」

「何勝手にご褒美貰ってオナホ顔してんだよ！オラッ！！
まだこっちは終わってねぇだろうが！ちゃんとマンコ締めろスケベエルフ！」
「んっひぃぃぃ♥♥ごめんなしゃい♥おまんこ締めましゅからゆるしてください♥♥
しめっ、締めるっ♥んん～～っ♥♥おっほおおおっ！おまんこがゴリゴリってぇ♥♥
んおっ♥そんなにしたらっ♥おっ♥おまんごごわれるっ♥♥♥」

「んっ♥ああっ♥おっほぉん♥♥もう完全にっ♥子宮降りちゃってる♥♥♥
おっ♥おっ♥受精準備♥完了っ♥おぉぉおおおおぉ♥♥」
「締まりすぎだろこのオナホール…！クソっもう出そうだ！
出してやるんだからちゃんと孕めよっ……！
「んおっ♥はっ♥ありがとうございますぅ♥♥ぁあ～～～～～っ♥♥
ぐうぅぅうっ♥♥オナホマンコもイグっ♥イギそうでしゅっっ♥
イイッ♥イカせてくれてありがとうございますっ♥♥あぁイっぐぅぅうっ♥」

「ぐおおおっ!!!出るっ!!!」
オォ♥
ビュルルル♥
ビュルル♥
「んおぉぉぉおおッ!!!あ～～～～!!あ～～～～～～～～ッ!!!!!!!!!
ほぁあぁあああッ!!んひぃいいい♥いぃいイぐぅ、おほぉおおおおうぅぅッ!!!
イッ、イっぐぅぅぅぅぅぅぅぅ♥♥♥おッおぉおおおおおおおおおん♥♥」

「……うぐっ……あっ……あへぇ……♥♥♥
あ～～～♥あ～～～～～～～～～♥♥」
ビクッ
ビクッ
ピクッ
ピクッ
ヒクッ
ヒクッ
「ふぅ…出した出した♪
……まだ出したりねぇな…」
「……はへぇ？」

～～6時間後～～～

「ぶひひひ…
こうして犬っころみたいにされるのが好きなんだろ？
犬なら犬らしく鳴いてみろよ！」
「…わんっ♥わんわ…んごっ♥んごっふぎゅっっ♥♥
んおっ♥♥ふごっ！♥♥ぶっひいいいぃぃ♥♥♥」
「あ～～♥エルフちゃんのお口あったけ～～♥♥」
「んぼっ♥おっ♥おごっ♥♥♥」
パンッ
パンッ
ブルッ

「ぶひっ♥んごっ～～～～～～～～～っ♥♥♥♥♥」
「ぐおお締まるっ！たまんねぇ、もう出そうだ…！」
「んっ…！ぢゅぢゅぢゅぢゅるるるる♥♥♥
ぢゅぽっ♥ぢゅるぢゅる～～～♥
ぢゅっ♥ずぞぞぞぞぞぞ～～～～っ♥♥♥」
「うおっ！？そんなにザーメン飲みてぇのか！？
なら出してやるよ！感謝して飲み込めよ！！」
ガシィ
パンッ
パンッ
ガシィ
ガシィ

「ぐおおお！出るっ！」
「ひぐぅっ♥んぐっ♥♥
イっ…いっぐぅぅぅ～～～～っ♥♥♥」
ビクビク
ビクビク
ビクビク
ビクビク

「ふぅ～出した出した♪」
「出したならさっさと退きやがれ！
まだまだ後ろで並んでる奴らが居るんだぞ！」
「チッ…わかったよ……オラッ！
お前のせいでちんぽが汚れたじゃねぇか！
ちゃんと掃除しやがれ！」
「…あっ……んひっ♥……おっ……んおっ♥」
（んっ…いき…息できないっ…誰か助けてっ……）
ブピュッ
ブビュッ
ドクッ
ドクッ
ドクッ
ドクッ

ビクッ
パンッ
パンッ
ジュル
ビクッ
（おごっ……いっ、意識がっ……）

～～数年後～～

「よぉ久しぶりだな、元気にしてたか？」
「ふ～～～っ♥はっ♥はっ♥はっ♥はっ♥」
フ～ッ♡
ズキ♡
ズキ♡
フ～ッ♡
「ってなんだこりゃ、ひっでぇな(笑)
オラッ！久しぶりに使って奴からこっちにこい！」

「ほらほらスケベエルフちゃんの大好きなおちんぽだぞ～♪」
「すんっ♥すんすんすんすん♥♥～～～～～っっ♥♥♥
ふ～～～～っ♥はっ♥はっ♥はっ♥はっ♥」
フェラ
フェラ
「ぶひひ…昔の言いつけはちゃんと守ってるみたいだな…」
「よし！」

「あ～～～～むっ♥♥♥」
「ぶひひひひ、がっつきすぎだろ(笑)タコさんかな？しっかり味わってしゃぶってね♥」
フェラ
フェラ
ブポッ
ブポッ
「ふ～っ♥ふ～～っ♥ぢゅぶっ♥ぢゅっぢゅっぢゅっぢゅるるるるるるっ!!♥♥♥」

「ぢゅぽっぢゅぽっじゅるるるるるるるっ♥♥
…んぷっ…じゅるっ♥じゅぞぞぞぞぞぞぞっ♥♥」
「くちゅっ♥んぐっ♥ぢゅっぽ♥ぢゅっぽ♥れろれろ…
ぢゅっぢゅっ♥…ぢゅぞぞぞぞぞぞぞっ♥♥♥」
（はやくっ♥ザーメン♥ちんぽみるく♥♥）
ブポッ
グッ
ぽっ
ぽっ

「ふおおおー出るっ！！！！」
「んぶぶぶっ！？！？！」
（オーク様のおちんぽミルクきたぁぁあ♥♥♥）
ドクン
ドクン
ドクン
ドクン
「よしよし…まだ飲むんじゃないぞまずは全部吸い出せ」
「ふぁ…ふぁふぁふぁふぁあい♥♥♥
ちゅるっ♥♥ちゅるちゅる……ぢゅぞぞぞぞぞっ♥」

「ぶひひ…エルフちゃんの大好物がお口いっぱいになって幸せだね♪ちゃんと感謝しながら味わって飲むんだぞ？」
「ふ～～っ♥ふ～～～っ♥オークさまおちんぽミルクお口に出してくださってありがとうございましゅ♥♥♥」
「大好物のおちんぽミルクいただきま～～～す♥♥♥」
ソッ♡
フ～ゾ♡
ぢゅっ♡
ぢゅる♡

「ごきゅごきゅごきゅごきゅ♥♥ぢゅるるっ♥じゅぞぞぞぞぞ♥
ごくっ！♥ぢゅっ♥……おえっ♥んぷっ…ごくっ♥♥」
「♥♥ずずず～～～っ♥♥♥
ごきゅっ♥ぢゅるる♥ごくっ♥…ごっくん！♥♥
ぷふぁ♥ぢゅるるる～～～～～っ♥♥♥」
ゴクッ
んっ♥
ぢゅっ♥
ゴクッ

「ぷふぁぁあっ！♥ふ～っ♥ふ～～っ♥」
（あんなに出したのにまだこんなにかっちかち…♥♥♥）
「何勝手にちんぽに頬ずりしてんだよドスケベエルフ！
ハメてほしかった欲しいなりの恰好ってもんがあるだろ！」
「ご、ごめんなさい♥♥するっ♥しますから♥♥
オーク様専用のちんぽコキ穴でシコシコしてくださいっ♥」
フ～ッ
フ～ッ
ビクッ
ビクッ

「おっ♥んほっ♥はっ♥はっ♥はっ♥オーク様のおちんぽ♥っへぇ♥♥
オーク様専用のちんぽハメるしか使い道のないだらしないエルフ穴にっ♥
オーク様のたくましいおちんぽ様ハメてくださぁ～～～～いっ♥♥♥」
「羞恥心ってものは無いのかよ、終わってんな(笑)
そんなにハメてほしいならハメてやるよ！感謝しろよ……！」
ハッ♥
ハッ♥
♥
♥
♥
♥
♥
♥
キュ♥
キュ♥

「んおっ！？はぉおおぉおおおん♥ハメてもらって早漏マンゴイグッ！！！
あ～～～ー！あ～～～～～～～～♥久しぶりのおちんぽ様すっごいいっぐぅうう♥♥
んっ♥……あひっ☆……はへぇえええ♥♥……んっ…あへぉおおおおおん♥」
「こいつ…！勝ってにイクだけじゃなく嬉ションまでしやがった…！！
しばらく合わないうちに我慢のないオナホになりやがって！
お仕置きだ！オラッ！！！」
オッ
オオッ
ジョロロ
ズブッ

「おっ♥おぉう♥♥んっ♥ちょっとまって♥んおおぉおっ♥♥やっべこれっ♥
ひっぐぅうう♥まらイグっ☆おっほぉおおおおお♥くぉお♥ほっ♥ほっ♥ほっ♥」
「また勝手にイったらただじゃおかねーからな！オラッ！まんこ締めろ！」
ソッ
オ
ブルッ
パンッ
「んん～～～っ♥♥むりっ♥これダメダメだめぇ♥♥♥まんこ締めてまらイグっ♥♥
早漏マンコイグっ☆イグののどまらないのぉおおおっほぉおおおおお♥♥
あ～～～っ♥イグッ♥おっほぉおおおお♥♥♥」

「締まるっ！こいつまたイキやがったな！？おおっ出そうだ！オラッ！排泄してやるから受精準備しろ！」
「ザーメンっ♥ちんぽミルクっ♥んおっ♥ほっ♥んほっ♥♥おっほぉおおおお♥♥♥オナホエルフのザー処理専用オナホ袋準備完了っ♥♥♥おっ♥またイグっ♥エルフオナホ早漏まんこ受精イキしますっ♥♥♥イグッ♥おぉっイっぢゃうぅうッ♥んっほぉおおおおおお♥♥♥♥」
オオオ
ンンン
オオオ
パンパン
パンパン
キュキュ
キュキュ

「ぐおおおっ！出るっ！！」
オオッ♡
オオッ♡
ブルブル♡
「イグっオーク様のおチンポ様でイがせてもらいましゅっ♥♥イグぅッ♥
んおっ☆いぐっ♥イッぐぅぅぅ～～～♥♥♥！！」
ビュルルル♡
ビュルルル♡
ドクン
ドクン

「……んひっ♥んおっ♥♥……っあ♥♥♥……んんっ♥ひいいいいッ♥
あ～～～♥あ～～～～～っ♥♥おまんこしあわしぇぇっ……♥♥♥」
ソリソリ
ソリソリ
ビクビク
ビクビク
ビクビク
キュンキュン
キュンキュン
ピクピク
「ぶひひ…今晩は休ませねぇからな……！」

「……んっ…んひっ☆…おぉっ♥……んっ♥あぁ～～♥
おっ♥あっ♥あ～～～～～っ♥♥♥」
オッ♡
オホッ♡
ヒクッ♡
ヒクッ♡
ブピピッ♡
「ふ～～～スッキリした♪
やっぱりオナホはエルフに限るわ(笑)
これからもよろしくねエルフちゃん♪」